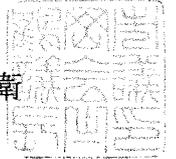


議 発 第 1 8 号

令和3年2月17日

鶴岡市長 皆川 治 様

鶴岡市議会議長 本間 新兵衛



市民との意見交換会を踏まえた鶴岡市議会からの要望について（通知）

標記の件につきまして、市民との意見交換会で出された意見等を踏まえ、令和3年2月3日に開催した市民との意見交換会調整会議において協議した結果、別紙のとおり、要望書として取りまとめましたので、通知します。

つきましては、別紙の事項を踏まえた施策が講じられますことを要望します。

なお、1月29日付けで「市民との意見交換会で出された意見・要望等について」を送付しましたが、地域住民の切実な意見であること、また、今後の市の政策に関する大きなテーマであることから、改めて市議会からの要望書として取りまとめたものでありますので、申し添えます。

小さな拠点づくり事業に関する要望事項

小さな拠点づくり事業は、令和2年度までの5か年としているが、その取組や目標達成についての検証・総括は必要であるが、このたびの地区住民との話し合いで、「小さな拠点」として維持継続していくためには、地区住民の力だけでの目標達成は限界があり、行政の支援を強く要望されたことから、特に下記の事項について予算措置を含めた対応を求めるものである。

記

(1) 地域デザイナー(地域コーディネーター)の配置継続について

持続可能な組織づくりにおいては、キーとなる人材が重要である。話し合いの中では、まだ地区を牽引していく人材は育っていないという現状から、引き続き地域デザイナーの役割を担う人材の配置を強く要望されている。

「小さな拠点づくり」事業の目標の達成は、まだ道半ばであること。また、この事業をモデルとして成功させ、他地域への波及効果を期待するのであれば、もう少し時間と市の支援が必要と考えることから、引き続き、地域デザイナー等の配置を求める。

(2) 特産物の加工・製造施設整備への支援について

特産物は地域の宝であり、これを外に発信できることになれば、住民の生きがいづくりや、地域の活力へつなげることができる。まさに、「小さな拠点づくり」の目的である。特産物の生産・加工・販売・消費者への一連のサイクルの確立のためには、①生産体制の確立、②加工施設の整備、③販売ルート・店舗の協力体制、④販売手法（ネットや移動販売、産直施設との連携）など、まだまだソフト・ハード面での行政支援が必要である。様々な行政情報を提供するとともに、補助支援事業を活用しながら施設整備についての支援を求める。

(3) 除雪支援体制の構築について

除雪に関して事業計画では、暮らしを支える仕組みとして、雪下ろしや雪かきツアーの実施、ボランティア等の支援を掲げているが、急な降雪や大雪の場合などへの即時対応や体制が整っていないため、特に高齢者、一人世帯には大きな不安があり、支援の必要性を訴えている。除雪については、朝日地域全体の課題であると考えられるが、特に当該地区での積雪は多く、安全・安心な暮らし維持にも多大な影響を及ぼすことから、除雪支援体制を整備するなど、財政措置を含めた支援を求める。

コロナ禍における観光業等に関する要望事項

このたびの市内観光関係者との話し合いでは、観光業界は外国人観光客や東京オリンピックなどの需要を見越していたところに、新型コロナが襲い、その影響は甚大なものとなっている。また、納入業者も多く裾野の広い業種でもあるため、特に下記の事項について対応を求めるものである。

記

(1) 新型コロナで甚大な影響を受けている事業者への支援について

観光業・飲食業他、新型コロナの感染拡大により甚大な影響を受けている事業者の現状把握に努め、事業の持続化に向けて最大限の支援を実行するよう求める。

(2) アフターコロナを見据えた新しい観光戦略の検討について

コロナショックにより、社会システムや消費スタイル、生活様式そして観光ニーズも劇的に変化し、ビフォアコロナの時代に描いていた中長期ビジョンや戦略が機能しなくなっている。アフターコロナ時代を見据えた、鶴岡市が目指すべき新しい観光ビジョン・観光戦略の検討を進めるよう求める。